

Clean Green 幸せ化学 Sustainable

ZTC
日本ゼトック



ECO ACTION 21

第83期 環境経営レポート

期間:2023年6月 ~ 2024年5月



エコアクション21[®]
認証番号 0009069



さがみはら
SDGs
パートナー
さがみはら 24年度 しあわせの輪

Contents

1. 組織の概要	3
2. 対象範囲	3
3. 環境経営方針とTop Message	4
4-1. ZETTOC HISTORY	5
4-2. ZTCはどんな会社？	6
5. 環境経営目標(83期)	7
6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(83期)	8
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(83期)	13
8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(84期)	20
9. 環境関連法規	25
10. その他の活動実績	26
10-1. 社内の安全衛生と健康経営活動	26
10-2. 内部コミュニケーション	27
10-3. 社会貢献活動	28
10-4. 地域活動	30
10-5. 生物多様性活動(ミシマサイコ栽培)	33
10-6. 緊急事態への準備及び対応	35
10-7. エコアクション21活動での出会いから...	36
10-8. トピックス	38
11. 代表者による全体の評価と見直し・指示	39



造る力。



創る力。



ZTC

1. 組織の概要



(1) 事業所名及び代表者

会社の名称 日本ゼトック株式会社(NIPPON ZETTOC CO.,LTD.)

代表者 代表取締役会長兼CEO 牧田 裕樹

代表取締役社長兼COO 森山 正孝

(2) 所在地

<本社>

東京都新宿区西新宿1丁目26番2号 新宿野村ビル12F

TEL:03-5323-2020(代表) FAX:03-5323-3010(代表)

<相模原事業所>

神奈川県相模原市緑区大山町1番5号

TEL:042-775-8700(代表) FAX:042-775-7012(代表)

<大阪営業所>

大阪府大阪市中央区安土町3丁目2番4号JUST本町ビル7F

TEL:06-6262-6881(代表) FAX:06-6262-6601(代表)

<新生富山事業所>

富山県中新川郡上市町三日市22番地

TEL:076-472-0380(代表) FAX:076-472-0339(代表)

(3) 環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者:江尻 茂之

TEL:03-5323-2020 FAX:03-5323-3010

E-mail:s-ejiri@zettoc.co.jp



(4) 事業活動

医薬品・医薬部外品・医療機器・化粧品・雑貨の研究開発及び製造販売

(5) 事業規模

設立 1954年(昭和29年)2月12日

資本金 9,600万円

売上高 13,329百万円(83期/2023年6月1日~2024年5月31日)

	従業員数(人)	延床面積(m ²)
本社	68	572.28
相模原事業所	383	24,093.43
大阪営業所	2	70.60
新生富山事業所	28	3,161.09

従業員には派遣社員、パート等を含む(2024年5月31日時点)

2. 対象範囲

(1) 認証・登録の範囲

本社、相模原事業所、大阪営業所、新生富山事業所

(2) レポート対象期間及び発行日

レポート対象期間:2023年6月1日~2024年5月31日

レポート発行日:2024年8月31日



3. 環境経営方針とTop Message

環境経営方針

【環境経営方針】

当社は、変化の激しい事業を取巻く状況がうむ課題とチャンスをつかみ、当社ミッション・ビジョン・パーパスを念頭に、全ての事業活動を通じて、地域社会への貢献と地球環境の保全に、全社一丸となり、継続的改善をしながら積極的に取り組むことを誓います。

【環境経営方針実現のための行動指針】

- ◆ 環境に関する法規制等につき、その遵守を誓います。
- ◆ 環境目標を定め、環境負荷に対して継続的な改善に努めます。
 - ・ 電気消費量の削減を中心に、二酸化炭素排出量削減に取り組みます
 - ・ 産業廃棄物の削減を中心に、廃棄物排出量削減に取り組みます
 - ・ 上水、井水の排水状況を管理し、総排水量削減に取り組みます
 - ・ 当社で使用する化学物質の管理を徹底します
- ◆ 当社が提供する製品等につき、環境への配慮を推進します。
- ◆ ESG経営・SDGsを推進します。
- ◆ 環境経営方針を全従業員に周知します。
- ◆ 当社が行なう環境に関する活動を広く社会に発信します。



2023年8月29日 改定

日本ゼトック株式会社 代表取締役社長 森山正孝

我々日本ゼトックは、ミッション「私たちは人々の幸せと健やかなる未来を創造し、世界中に笑顔をお届けしてまいります」の理念を基に、創業以来約70年に亘り多種多様な製品を皆様にお届けしてまいりました。

国内では、創業当時より、高機能な口腔製剤・歯磨きのODM・OEMを中心にシェア拡大に努め、近年では化粧品ODM・OEM分野にも参入する等、ODM・OEM事業を中心に発展に努めてまいりました。また同時に当社の研究・開発力を活かし化粧品自社ブランドの構築に努め、近年では保湿スキンケア化粧品「ハパトリート」が市場で注目を集めております。

海外では、中国に現地法人を置く等、中華圏ASEAN諸国を中心に、世界中の皆様の健康に寄与できる存在となるよう努めております。

当社は今後もお客様の健康を実現する為に、長年にわたり培ってまいりました技術力と開発力を駆使し、独創的で多様な製品開発と更なる品質の向上を目指し、皆様から信頼される企業としてサステナブルな貢献をしてまいります。

代表取締役社長兼COO

森山正孝

幸せ化学
Clean Green Sustainable



4-1. ZETTOC HISTORY

日本ゼトックの モノづくりとこだわりの歴史

創業以降、「化学の力による効能の発見と証明」「効能を広く人々に提供していくためのモノづくり」へのこだわりは、脈々と受け継がれています。



1954

1954 ● 東京都世田谷区にわかもと製薬㈱の関係会社日本ゼオラ㈱として設立。歯石沈着予防成分ゼオライトを基とした薬用歯磨「ゼオラ」の生産を開始。



1974

1964 ● 米国メンネン社（現コルゲート社）と技術提携し、男性化粧品およびベビー化粧品を開発し、生産を開始。

1974 ● 全業工業（株）と提携し、日本初の塩化リゾチーム配合の歯槽膿漏予防高機能歯磨き剤「デンキュア」（特許製品）を開発し、生産を開始。



1985

1985 ● 藤沢薬品工業株式会社（現・第一三共ヘルスケア株式会社）と提携を開始。「クリーンデンタル」並びに「フジサワデンタルE」を開発し、生産を開始。



2002

1990 ● 社名を現社名（日本ゼトック（株））に改称し、本社を東京都千代田区丸の内から東京都千代田区九段へ移転。

1993 ● 15年に及ぶ臨床試験を経て、（株）サンギと共同研究を進めてきた薬用ハイドロキシアパタイトが日本で初めて厚生労働省中央薬事審議会より新有効成分として承認され、薬用ハイドロキシアパタイト配合歯磨「アバガードM」が広く認知される。

1995 ● 「アバガードM」の大ヒットによる歯磨き剤増産のため、歯磨き剤調剤設備を増設、主要充填・包装ラインを全自動化。

2002 ● 独自の乳化技術である、エマルジョン製法を確立し、リンゴ種子エキス配合のスキンケア化粧品シリーズ「ポミエ」を自社販売として発売、通信販売を開始。

2008 ● 工場を神奈川県相模原市淵野辺から神奈川県相模原市緑区大山町（橋本）へ移転。

2012 ● 上海に現地法人「澤透克(上海)商贸有限公司」を設立。大阪市中央区安土町に「大阪営業所」を開設。

2014 ● 相模原事業所に2号棟を増設。本社を東京都新宿区の新宿野村ビルに移転。

2020 ● 生産能力増強の為、相模原事業所に3号棟を新設、新生富山事業所を増床。

2022 ● 相模原事業所の歯磨き剤年間生産数が1億本を突破。

2023 ● チューブ製造機を導入し、ラミネートチューブの生産を開始。



2024

2024 ● アメリカ航空宇宙局（NASA）の技術を応用し、（株）サンギと共同開発を行った薬用ハイドロキシアパタイト配合歯磨が「Space Technology Hall of Fame®」にて、日本企業として初めて“殿堂入り”。



ゼトック(ZTC)社名の由来

ZTC

Zeola

旧社名(日本ゼオラ)に因み、
口腔ケア製品群を表現

Toiletries

トイレタリー&コスメティック製品

Chemicals

化学製品・一般雑貨



4-2. ZTCはどんな会社？



“明るく幸せな毎日は健康であることが基本である”を念頭に
さまざまな製品を送り出してきた日本ゼトック。
イオン交換作用をもつゼオライトを配合した薬用歯磨「ゼオラ」から始まった歴史からもうかがえるように、
日本ゼトックが一貫して堅持してきたのは、「科学の力で効能を実現する」との企業姿勢。
地道で粘り強い基礎研究により新しい材料を発見し、
効能を実現する製品化を進め、品質や効き目を徹底的に追求。
さまざまな口腔ケア製品および化粧品をOEMや自社ルートを通し、国内外のお客さまにお届けしてきました。
商品を通じ、一人ひとりを笑顔にしたい。
たくさんの人々の笑顔を通じ、世界そのものを笑顔にしたい……
そうした願いは今も、そしてこれからも変わりません。



5. 環境経営目標(83期)

事業所	項目	目標
 本社	CO2排出量	電力使用量の維持(kWh)、CO2排出量の維持(t)
	一般廃棄物量	最終処分廃棄物(一般ごみ・紙類)の削減(kg)、再資源廃棄物(機密書類溶解廃棄、シュレッダー、段ボール、古新聞)の削減(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	CSR活動	CSR活動の提案・実施
 相模原事業所	CO2排出量	電力使用量の増加率の削減と原単位削減(kWh)、電力購入量の増加率の削減と原単位削減(kWh)、ガス使用量の増加率の削減と原単位削減(m3)、ガソリン使用量の増加率の削減と原単位削減(L)、軽油使用量の増加率の削減と原単位削減(L)、CO2排出量の増加率の削減と原単位削減(t)
	廃棄物	汚泥(充填不良、廃バルク)量と原単位削減(kg)、廃プラスチック類量と原単位削減(kg)
	上水使用量	上水使用量の増加率の削減と原単位削減(m3)
	排水量	排水量の増加率の削減と原単位削減(m3)
	化学物質の管理	化学物質使用量の現状維持:PRTR制度対象物質(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	生物多様性保全活動	生物多様性保全活動の実施
	製品開発	製品開発において環境に配慮した施策を行う



本社



相模原事業所

事業所	項目	目標
 大阪営業所	CO2排出量	電力使用量の維持(kWh)、CO2排出量の維持(t)
	上水使用量	上水使用量の維持(m3)
	一般廃棄物量	最終処分廃棄物(一般ごみ・紙類、機密書類溶解廃棄、ペットボトル)の削減または維持(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	製品開発	環境に配慮した製品の開発
 新生富山事業所	CO2排出量	電力使用量の削減(kWh)、LPG使用量の削減(m3)、ガソリン使用量の削減(L)、CO2排出量の削減(t)
	廃棄物量	廃プラスチックの削減(kg)
	上水使用量	上水使用量の削減(m3)
	下水排出量	下水道排水量の削減(m3)
	化学物質の管理	化学物質使用量の現状維持:PRTR制度対象物質(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	CSR活動	周辺地域のゴミ拾い活動の実施
	生物多様性	生物多様性保全活動の実施



新生富山事業所



大阪営業所



6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(83期)

項目 ※1		環境経営計画	取組内容	
1	CO2排出量	電力使用量の維持 CO2排出量の維持	間引き照明を徹底する	○
			使っていない電気機器の電源オフを実施する	◎
			周辺機器を清掃し、より少ない電力で利用効率を高める	◎
2	一般廃棄物量	最終処分廃棄物(一般ごみ・紙類)の削減 再資源廃棄物(機密書類溶解廃棄、シュレッダー、 段ボール、古新聞)の削減	排出量の現状把握と管理	◎
			使用済封筒・可能な裏紙の再利用	○
			印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める	◎
			ペーパータオルの使用量を必要最小限に留める→促進POP	○
			ゴミ削減(eco)の意識の徹底の為に施策を実施	○
3	物質使用量	コピー用紙の削減	据え付け紙コップ使用を最小限に留める。マイボトル、マイ水筒等を使用する	◎
			使用量の現状把握と管理と、周知の徹底	◎
			印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める	◎
			両面、集約等の機能を有効活用	◎
4	CSR活動	CSR活動の実施	印刷した印刷物を必ず回収する	○
			自社発信の活動への参加を検討する	○
			野村ビル全体での活動、新宿区、周辺地域におけるCSR活動への参加も検討する	△



本社

◎:実績に繋がる取組ができた、○:取組ができた、△:取組が不十分だった、×:取組が不十分で来期は工夫が必要
※1 本社では、化学物質の使用はなく、上下水量はビルで一括管理しているため、計画項目に盛り込んでいない

■SDGs(持続可能な開発目標)って何？

SDGs(持続可能な開発目標)は、全世界が共に取り組むべき17の目標で、それぞれに具体的なターゲットが設定されています。これらの目標は、貧困の撲滅から健康と福祉の向上、教育の普及、ジェンダー平等の実現、気候変動の対策など、人々の生活と地球環境の両方を改善することを目指しています。企業がSDGsの目標を達成するための活動を行うことで、社会貢献を果たすだけでなく、新たなビジネスチャンスを見つけることも可能です。私たちは日常生活の中で地球環境を考える行動を取ることで、SDGsの目標達成に貢献することができます。



6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(83期)



相模原事業所



	項目	環境経営計画	取組内容	
1	CO2排出量	電力使用量の増加率の削減と原単位削減	共有エリアの夏季冬季のエアコン設定温度管理(夏季26℃、冬季20℃)	○
		電力購入量の増加率の削減と原単位削減	不在時の消灯実施	◎
		ガス使用量の増加率の削減と原単位削減	空調機のフィルター清掃、室外機と熱交換器の洗浄	◎
		ガソリン使用量の増加率の削減と原単位削減	コンプレッサーのエアリーク箇所の改善	△
		軽油使用量の増加率の削減と原単位削減	社有車のアイドリングストップ	◎
		CO2排出量の増加率の削減と原単位削減	太陽光発電の活用	◎
		2	廃棄物	汚泥(充填不良、廃バルク)量と原単位削減
	ロットアウトの低減・改善			○
	汚泥のリサイクル(セメント)の実施			○
	廃プラスチック類量と原単位削減		再資源化の検討	◎
			不用品廃棄・削減	◎
			廃プラスチック類のコンパクト化	◎
3	上水使用量	上水使用量の増加率の削減と原単位削減	プラスチックのリサイクル(擬木化)の実施	◎
			効率的なバルク製造	○
4	排水量	排水量の増加率の削減と原単位削減	節水の実施	◎
			効率生産による洗浄回数の改善	○
5	化学物質の管理	化学物質使用量の現状維持:PRTR制度対象物質	節水の実施	○
			現状の把握と管理	◎
6	物質使用量	コピー用紙の削減	バルクロットアウトの低減・改善	○
			印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	◎
			両面・集約等の機能を活用	◎
7	生物多様性 保全活動	生物多様性保全活動の実施	ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)	○
			地域の活動に参加	○
			相模原事業所の敷地内に絶滅危惧種ミシマサイコを育成・栽培、新生富山事業所への展開	◎
8	製品開発	製品開発において環境に配慮した施策を行う	従業員への啓蒙	◎
			環境に配慮した製品の開発を行う	◎
			取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う	◎
			環境に配慮した原料、資材の使用を推進する	◎
			環境に配慮した製品仕様を検討する	◎
	SDGsに関する勉強会に参加する	◎		

◎:実績に繋がる取組ができた、○:取組ができた、△:取組が不十分だった、×:取組が不十分で来期は工夫が必要

6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(83期)

項目 ※1		環境経営計画	取組内容	
1	CO2排出量	電力使用量の維持 CO2排出量の維持	不在時と休憩時間の消灯実施	◎
			使っていない電気機器の電源オフ実施	◎
			夏季冬季のエアコン設定温度管理	○
2	上水使用量	上水使用量の維持	節水を心がける	△
3	一般廃棄物量	最終処分廃棄物(一般ごみ・紙類、機密書類溶解 廃棄、ペットボトル)の削減または維持	排出量の現状と把握	◎
			使用済み封筒等再利用徹底	○
			印刷物を作成する場合、必要最小限の部数に留める	◎
			ゴミ削減及びリサイクルの意識徹底	◎
4	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	◎
			両面・集約等の機能を活用	◎
			ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)	◎
			電子ファイル化推進	◎
5	製品開発	環境に配慮した製品の開発	環境に配慮した製品の開発を行う	○
			取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う	○
			環境に配慮した原料、資材の使用を推進する	○
			環境に配慮した製品仕様を検討する	○

◎:実績に繋がる取組ができた、○:取組ができた、△:取組が不十分だった、×:取組が不十分で来期は工夫が必要

※1 大阪営業所では、化学物質の使用はないため、計画項目に盛り込んでいない

■地球を守る企業の役割:VUCA時代とSDGsを意識した経営

VUCAとは、「Volatility(変動性)」世界がどんどん変わっていく、「Uncertainty(不確実性)」何が起こるか予想がつかない、「Complexity(複雑性)」物事が複雑に絡み合っている、「Ambiguity(曖昧性)」そして何が正しいのかが曖昧である、という単語の頭文字を取った言葉で、【予測が困難な状況】を指します。例えば、SNSで情報があふれていることや、新型コロナウイルスのような予想外の出来事が起こることなどがそれに当たります。このような時代をうまく生き抜くためには、SDGs(持続可能な開発目標)を意識した経営をすることが大切だと言われています。つまり、地球環境を保護しながら、社会が公平で豊かになるようにビジネスを展開する方法を考えることが、これからの時代は大切になります。



大阪営業所



6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(83期)



新生富山事業所



項目		環境経営計画	取組内容	
1	CO2排出量	電力使用量の削減	不在時と休憩時間の消灯実施	○
		LPG使用量の削減	使っていない電気機器の電源オフ実施	◎
		ガソリン使用量の削減	夏季冬季のエアコン設定温度管理	○
		CO2排出量の削減	社有車のアイドリングストップ	◎
2	廃棄物量	廃プラスチックの削減	再資源化の検討	○
			不良品廃棄の削減	○
3	上水使用量	節水の実施	節水の実施	◎
			上水使用量を毎月測定し管理する	○
4	下水排出量	節水の実施	節水の実施	○
			下水道排出量を毎月測定し管理する	○
5	化学物質の管理	化学物質使用量の把握:PRTR制度対象物質	PRTR制度対象物質を把握し、使用量を毎月測定し、管理する	◎
6	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	○
			両面・集約等の機能を活用	○
			ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)	○
7	CSR活動	周辺地域のゴミ拾い活動の実施	周辺地域のゴミ拾い活動をする	◎
8	生物多様性	生物多様性保全活動の実施	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培・啓発の実施	○

◎:実績に繋がる取組ができた、○:取組ができた、△:取組が不十分だった、×:取組が不十分で来期は工夫が必要

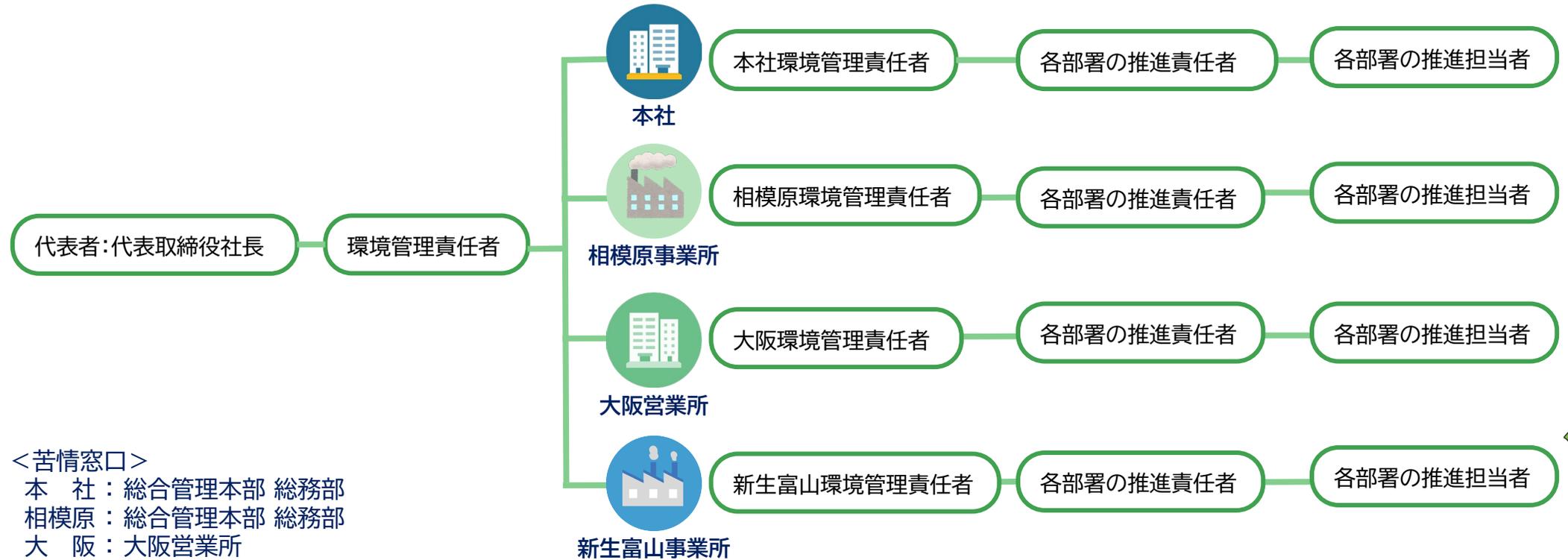
■地球を守る企業の役割:環境への配慮がもたらす成長と持続可能性

緑豊かな森、青い海、美しい星空……。これらは私たちが生きていく上で欠かせない自然の恵みです。しかし、地球温暖化や環境破壊など、地球の環境は危機に直面しています。その中で、企業が環境に配慮した活動を行うことが、ますます重要になってきています。消費者や協力会社は、企業がどれだけ利益を出しているかだけでなく、環境にどれだけ配慮しているかも評価の基準としています。企業が社会的な信頼を得るための重要な手段となります。また、環境に配慮した商品やサービスは、消費者からの需要が高いため、新たなビジネスのチャンスを生み出す可能性があります。そして何より、企業の活動は地球全体のCO2排出量の大部分を占めています。そのため、企業がCO2排出を削減することは、地球温暖化などの環境問題を直接的に解決することにつながります。企業が環境に優しい活動を行うことは、企業自体の成長と地球の持続可能性を同時に支える大切な役割を果たします。私たち一人一人も、日々の生活の中で環境に配慮した行動を心掛けることで、地球を守ることに貢献できます。地球は私たちの唯一の故郷です。だからこそ、私たちは地球を大切に、次の世代に美しい地球を残す責任があります。それぞれの立場で、地球を守るための行動を起こしましょう。



6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(83期)

(エコアクション21推進組織図)



<苦情窓口>

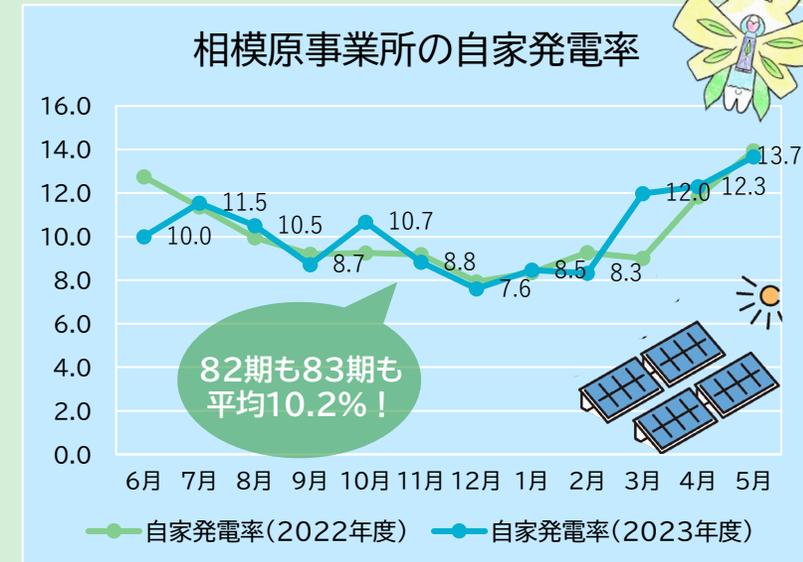
本 社：総合管理本部 総務部
相模原：総合管理本部 総務部
大 阪：大阪営業所
富 山：富山管理課



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(83期)



◆エネルギー		電気使用量(kWh)					
		81期(基準年)	目標値		83期実績		
本社	総量	27,230	25,868~ 28,591	±5%	25,840	△5.1%	目標達成
	使用量	6,018,643	増加率3.4%以下(※1)		6,766,689	⬆12.4%	目標未達
相模原	購入量	5,617,696	増加率3.4%以下(※1)		6,073,398	⬆8.1%	目標未達
	原単位(使用量)	0.567	0.561	△1%	0.0616	⬆8.6%	目標未達
	原単位(購入量)	0.529	0.524	△1%	0.553	⬆4.5%	目標未達
大阪	総量(※2)	6,427	6,106~6,748	±5%	6,909	⬆7.5%	目標未達
富山	総量	855,615	829,947	△3%	770,087	△10.0%	目標達成



本社

前期より引き続き、時差出勤の実施下での測定となりました。コロナ禍以前に実施していた昼食時の一斉電気消灯等は実施が困難となっているものの、不在室の消灯実施や社内TV・PCなどの省エネモードの意識の浸透により、電力使用量は目標を上回る達成となりました。引き続き電気使用量の低減に努めていきます。



unnecessary electrical equipment use, unnecessary lighting, etc. Please turn off unnecessary lighting, use air conditioning properly, etc. ... Each department is working to reduce electricity consumption. We will continue to work on saving electricity.



新生富山事業所

83期は、81期基準と比較して電力使用量を減らすことができました。今後、夏季・冬季の現状を把握しつつ、社内の節電意識の向上や対策を行い、電気使用量の削減に努めていきます。



大阪営業所

(※2)大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。電気使用量の削減に意識的に注力しましたが、目標数値達成までは届きませんでした。今後とも推移を観察し、安定的な削減に努めていきます。



相模原事業所

83期の電気使用量は基準年と比較して12.4%の増加となりました。3号棟の各ラインの稼働率が増加したことが原因と考えています。購入電力量も基準年と比較して8.1%増加しましたが、電気使用量よりも増加率は低いため、太陽光発電の効果が確認されました。原単位の考え方を83期中に、製品1本当たりからバルク1kg当たりに見直しをしました。電気使用量も購入電力量も、83期の生産量増加率3.4%を上回ってしまったため、来期以降、節電と効率的なエネルギー使用に努めたいと考えています。



81期の10月より太陽光発電設備を設置しています。83期(2023年度)は、82期(2022年度)と同様、平均10.2%の自家発電率を実現しました。

(※1)相模原事業所は、エネルギー使用量の増加率が、当期の生産量増加率以下になることを目標としました。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(83期)



◆エネルギー		ガス使用量(m3)				
		81期(基準年)	目標値		83期実績	
相模原	総量	368,755	増加率3.4%以下(※1)		416,287	↑12.9% 目標未達
	原単位	0.0347	0.0344	△1%	0.0379	↑9.2% 目標未達
富山	総量	38,038	36,897	△3%	27,925	△26.59% 目標達成

相模原事業所



83期の都市ガス使用量は基準年と比較して12.9%の増加、原単位についても9.2%の増加となりました。都市ガスについても、生産量増加率を上回る使用量になってしまいました。都市ガスについても、来期以降、節ガスと効率的なエネルギー使用に努めたいと考えています。

ガソリン使用量は基準年と比較して18.8%の削減、原単位についても21.5%の削減が実現できました。社用車を6月と8月に、ガソリン車からハイブリット車に入れ替えたことが要因と考えています。来期以降も、安全運転と効率的なエネルギー使用に努めたいと考えています。

軽油使用量は基準年と比較して大幅な増大になりました。これは前期に導入した大型トラックの稼働が本格的になったことによると思われます。今まで全ての荷物を外注トラックで輸送していましたが、近年、一部の荷物を自前輸送に切替える施策を行っています。Scope3も含めると、当社における軽油使用量には大きな違いは無いと推察しています。

(※1)相模原事業所は、エネルギー使用量の増加率が、当期の生産量増加率以下になることを目標としました。

◆エネルギー		ガソリン使用量(L)				
		81期(基準年)	目標値		83期実績	
相模原	総量	629	増加率3.4%以下(※1)		511	↓18.8% 目標達成
	原単位(×10 ⁻⁵)	5.92	5.86	△1%	4.65	↓21.5% 目標達成
富山	総量	770	747	△3%	126	△83.64% 目標達成

新生富山事業所



83期は、81期基準と比較してプロパンガス使用量を減らすことができました。今後、夏季・冬季の現状を把握しつつ、プロパンガスの使用量の削減に努めていきます。

ガソリン使用量は126Lで、81期と比較しまして83.64%削減となり目標達成となっております。エコドライブを推進してガソリン使用量の継続的な削減に努めていきます。

相模原事業所の社用車をハイブリットエンジン車に代えました！
2023年6月2日:カローラ
2023年8月10日:ノア



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(83期)



◆二酸化炭素排出量(t)

		81期(基準年)	目標値		83期実績		
本社	総量	13.16	12.5~13.8	維持	13.33	↑1.3%	目標達成
	相模原						
相模原	総量	3,314	増加率3.4%以下(※1)		3,641	↑9.9%	目標未達
	原単位(×10 ⁻⁴)	3.12	3.09	△1%	3.32	↑6.4%	目標未達
大阪	総量(※2)	2.15	2.039~2.254	±5%	2.31	↑7.4%	目標未達
富山	総量	650	631	△3%	545	△16.2%	目標達成

(※2)大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。

相模原事業所



(※1)相模原事業所は、エネルギー使用量の増加率が、当期の生産量増加率以下になることを目標としました。

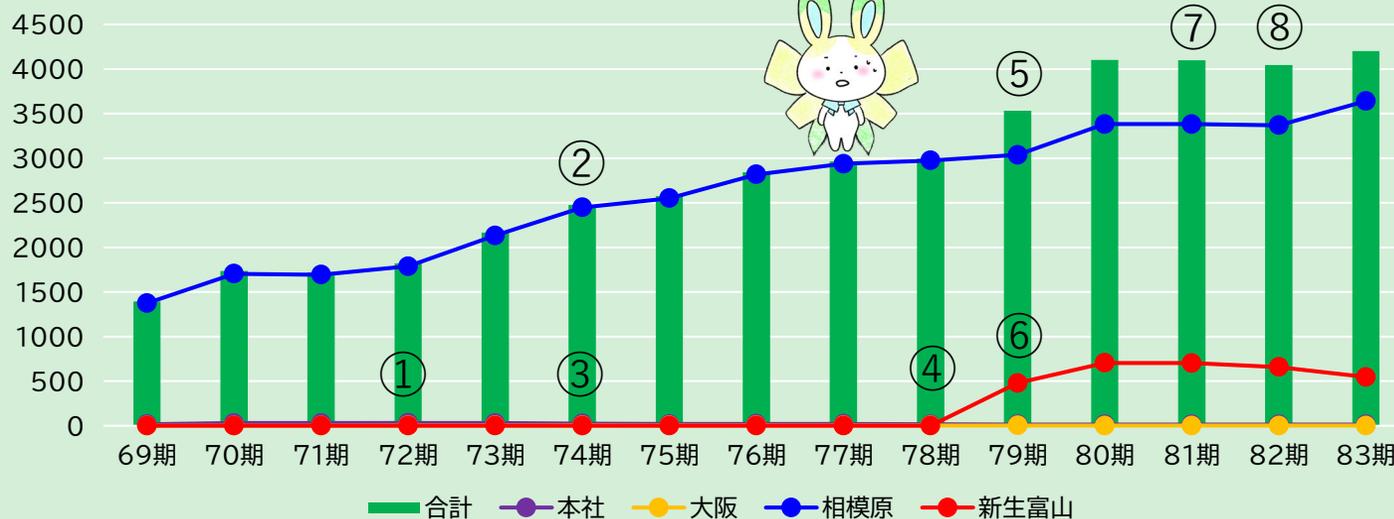
83期の二酸化炭素排出量は基準年と比較して9.9%の増加、原単位についても6.4%の増加となり、83期の生産量増加率3.4%を上回りました。相模原事業所における二酸化炭素排出量の原因の約75%は電気使用量にあるため、来期以降、節電と電気の効率使用を中心に努力をしていきたいと考えています。

新生富山事業所



83期は、81期基準と比較して二酸化炭素排出量は減らすことができました。今後、夏季・冬季の現状を把握しつつ、社内の節電意識の向上や対策を行い、二酸化炭素排出量の削減に努めていきます。

全事業所合計のCO2排出量推移



事業所の拡張、生産量の増加と比例して、CO2排出量も増加…



クリーンエネルギーの導入が今後のカギです!



- ① 72期(2012年) 大阪営業所開設
- ② 74期(2014年) 相模原事業所増設(2号棟)
- ③ 74期(2014年) 本社を九段下から新宿に移転し増床
- ④ 78期(2018年) 新生薬品工業と合併し、新生富山事業所に改名
- ⑤ 79期(2019年) 相模原事業所増設(3号棟)
- ⑥ 79期(2019年) 新生富山事業所を増築
- ⑦ 81期(2021年) 相模原事業所に太陽光発電設備を設置
- ⑧ 82期(2022年) 相模原事業所でチューピングマシン本格稼働

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(83期)



◆廃棄物		廃プラスチック(kg)					
		81期(基準年)	目標値	83期実績			
相模原	総量	22,787	21,648	△5%	9,940	△56.4%	目標達成
	原単位(×10 ⁻³)	2.15	2.04	△5%	0.91	△57.9%	目標達成
富山	総量	1,415	1,373	△3%	1,084	△23.4%	目標達成

◆廃棄物		汚泥(kg)					
		81期(基準年)	目標値	83期実績			
相模原	総量	702,370	667,252	△5%	497,990	△29.1%	目標達成
	原単位(×10 ⁻²)	6.61	6.28	△5%	4.53	△31.5%	目標達成

◆廃棄物		一般廃棄物(kg)					
		81期(基準年)	目標値	83期実績			
本社	最終処分	1,875	1,837	△2%	1,775	△5.3%	目標達成
	再資源化	1,557	1,525	△2%	1,266	△18.7%	目標達成
大阪	総量(※1)	434	412~434	95~100%	112	△74.2%	目標達成

本社



掲示等を通しての意識啓蒙により、再資源化廃棄物・最終処分廃棄物ともに大幅に目標達成となりました。今後も引き続き、SDGs推進の一環として、ゴミ削減の意識付け、再資源化の推進を行ってまいります。

相模原事業所



83期の汚泥排出量は基準年と比較して29.1%の削減、原単位についても31.5%の削減に成功しました。これは汚泥をセメントにリサイクルする施策の推進によるものと考えます。廃プラスチック類は基準年と比較して56.4%の削減、原単位についても57.9%の削減に成功しました。これはプラスチック類を擬木にリサイクルする施策の推進によるものと考えます。今後も廃棄物の削減と共に、リサイクルをする新しい施策も常に考えていきたいと思っております。

大阪営業所



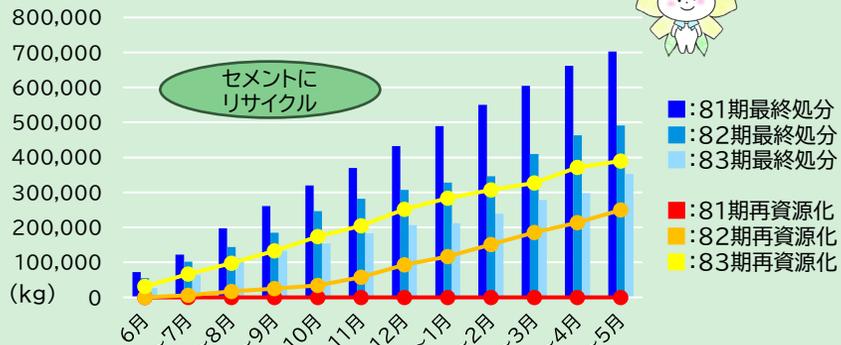
(※1)大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。ゴミの分別、削減に努めた結果、78期と比較すると処分量は減少しました。前年度(82期)と比較しても削減に成功しました。今後も現状維持に努めてまいります。

新生富山事業所

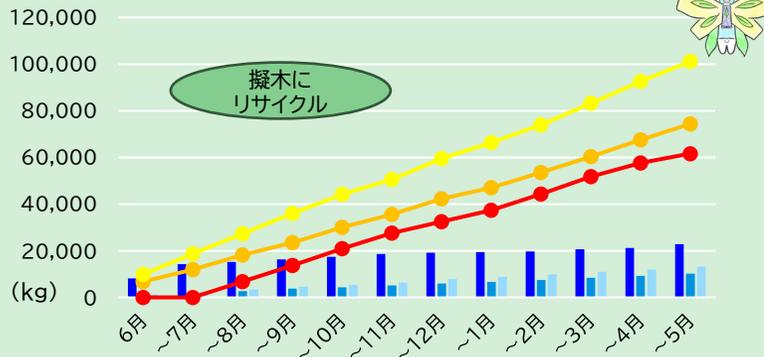


83期は廃プラスチック類排出量の測定記録を実施いたしました。81期と比較すると23.39%削減となっており目標達成となっております。ただ、廃プラスチックはリサイクルしていることが確認できたので来期は産業廃棄物削減に目標を変更します。

相模原事業所 汚泥 最終処分・再資源化推移(累計)



相模原事業所 プラスチック類 最終処分・再資源化推移(累計)



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(83期)



◆上下水		上水使用量(m3)				
		81期(基準年)	目標値		83期実績	
相模原	総量	27,939	増加率3.4%以下(※1)		31,177	↑11.6% 目標未達
	原単位(×10 ⁻³)	2.63	2.60	△1%	2.84	↑8.0% 目標未達
大阪	総量	23	21.9~24.2	±5%	27	↑17.4% 目標未達
富山	総量	2,436	2,363	△3%	2,208	△9.4% 目標達成

◆上下水		下水道排出量(m3)				
		81期(基準年)	目標値		83期実績	
相模原	総量	51,764	増加率3.4%以下(※1)		70,376	↑36.0% 目標未達
	原単位(×10 ⁻³)	4.87	4.82	△1%	6.41	↑31.6% 目標未達
富山	総量	2,885	2,798	△3%	3,195	↑10.8% 目標未達



「上水」とは？

「上水」は、私たちが飲む水や、工場で使う水のことを指します。雨や雪が降って、ダムや湖に溜まり、その後、浄水施設で処理されて、安全な水である「上水」になります。この水は、ポンプで各地の配水池に送られ、家庭や学校、工場に届けられます。



「上水」を使用する際に大切なのは、「節水」を心がけることです。水は貴重な資源で、無駄遣いすると地球に悪影響を及ぼします。節水することで、エネルギーを節約し、地球温暖化を防ぐことができます。また、節水するとお金も節約できます。だからこそ、私たちの生活だけでなく、工場でも節水を心掛ける必要があります。

「上水」は私たちの生活や工場の生産を支えるシステムを指し、「節水」はそのシステムを効率的に利用するための大切な取り組みです。



相模原事業所



(※1)相模原事業所は、エネルギー使用量の増加率が、当期の生産量増加率以下になることを目標としました。

上水:83期は基準年と比較し11.6%の増加、原単位についても8.0%の増加になり、生産量増加率を上回る使用量になってしまいました。3号棟の各ラインの稼働率が増加したことが原因と考えています。来期以降も節水の啓蒙活動を強化し、不要な上水の使用量削減に努めたいと考えています。

下水:83期は基準年と比較し36.0%の増加、原単位についても31.6%の増加になり、生産量増加率を上回る排水量になってしまいました。生産量の増加に伴い、洗浄回数が増えたことが原因と考えます。来期以降も節水の啓蒙活動を強化し、不要な上水使用量を削減し、それに伴う下水道排水量削減に努めたいと考えています。

大阪営業所



(※1)大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。

上水:7月の使用量だけが異常でした。締め忘れの可能性もあるので、随時チェックを行い、削減に努めていきます。

新生富山事業所



上水:基準年度と比較して約9.36%削減となっており目標達成となっています。

下水:81基準年度比で10.75%増えていますが、前年度82期実績3,385m³に比べ5.61%削減されています。84期も使用量を確認し注視していきます。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(83期)

◆化学物質の管理

		81期(基準年)	目標値		83期実績		
相模原	フッ化水素及びその水溶性塩	21,255kg	+5%までに維持(※1)		22,371kg	↑5.3%	目標未達
	ドデシル硫酸Na	69,919kg	+5%までに維持(※1)		66,923kg	△4.3%	目標達成
	ポリオキシエーテル	0kg	0kg	±0%	増減なし	±0%	目標達成
富山	ドデシル硫酸Na	48.4kg	48.4kg	±0%	0.1kg	△99.89%	目標達成

PRTP法とは、化学物質がどれだけ環境に排出されたかを事業者が自分で把握し、それを国に報告する制度のことです。PRTP法対象物質の使用量を把握し、適切に管理することは、環境保護にとって非常に重要です。これらの物質の使用を適切に管理することで、環境への影響を最小限に抑えることができます。

相模原事業所



(※1)相模原事業所は、エネルギー使用量の増加率が、当期の生産量増加率以下になることを目標としました。

83期は基準年と比較し、フッ化水素及びその水溶性塩については5.3%の増加、ドデシル硫酸ナトリウムについては4.3%の削減になりました。フッ化水素及びその水溶性塩に関してはフッ素入り歯磨剤の生産量増加が要因と考えます。ポリオキシエーテルは今期も使用しておりません。来期以降もPRTP法対象物質の使用量を把握し、しっかりと管理していきます。

新生富山事業所



ドデシル硫酸ナトリウムを使用した製品の製造が行われず使用量が大幅に削減しました。0.06kgの実績は品質管理での試薬使用量となります。これからもPRTP法対象物質の使用量を把握し、しっかりと管理していきます。

◆物質使用量／コピー用紙(枚)

		81期(基準年)	目標値		83期実績		
本社	総量	167,000	163,660	△2%	137,000	△18.0%	目標達成
相模原	総量	932,500	923,175	△1%	705,000	△24.4%	目標達成
大阪	総量(※2)	14,795	13,315	△10%	4,086	△72.3%	目標達成
富山	総量	97,000	96,709	△3%	77,000	△20.6%	目標未達

初めて全サイトで目標が達成されました！



本社



掲示による意識付け、また昨今の書類電子化の影響もあり、前期より引き続いたの目標達成となりました。

相模原事業所



83期は基準年と比較して24.4%と大きな削減に成功しました。コロナ禍を経て、Web会議等が浸透したことでそれに伴いペーパーレス化も進んだと考えています。来期以降もペーパーレスの推進に努めたいと考えています。

大阪営業所



(※1)大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。78期と比較するとコピー用紙の使用量は72.3%減少しました。これは、PDF化など用紙の削減を推進した結果だと考えられます。前年度(82期)と比較しても削減に成功しました。引き続き削減に努めていきます。

新生富山事業所



83期のコピー用紙使用量は、81期と比較して20,000枚削減でき目標達成となっています。今後も印刷物を必要最低限の部数に留める、両面・集約等の機能活用、ペーパーレスの推進等を行い、使用量の低減に努めたいと思います。

紙節約のため以下を心がけました。

1. 両面印刷
2. デジタル化
3. プレビュー利用
4. 余白最小化
5. 再利用



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(83期)



◆生物多様性／CSR活動

				目標値	83期実績	
開	本社	CSR活動	CSR活動	83期～85期で提案・実施3件	80期～82期で提案・実施3件	目標達成
	相模原	生物多様性	生物多様性保全活動	相模事業所の敷地で絶滅危惧種 ミシマサイコの育成・栽培・啓発の実施	・地域活動はコロナ禍のため参加を断念 ・相模原事業所、新生富山事業所、本社で栽培実施	目標達成
	富山	CSR活動	近隣地域のゴミ拾い活動	周辺地域のゴミ拾い活動 活動の継続(4回/年)	4回/年	目標達成



◆環境に配慮した製品開発

				目標値	82期実績	
	相模原	製品開発において環境に配慮した施策を行う		83期～85期:合計3件実施	83期は32件実施	目標達成
開	大阪	環境に配慮した製品の開発		80期～82期:合計3件実施	83期は2件実施	目標達成



本社



<CSR活動>
テプラの芯のリサイクルを開始しました(相模原事業所に送り、一緒にリサイクル)。
一部、不燃物や試作品サンプル(チューブやスプレーなど)など、分別されていない廃棄物が確認されたため、衛生委員会と協力して、分別を徹底しました。

また83期は、野村ビル全体での活動および参加可否を野村ビル管理会社に調査しました。野村ビルとして活動しているものはなかったため、今後は新宿区や周辺地区での活動を調査します。

相模原事業所



<生物多様性>
83期もコロナ対策のため地域活動には参加できませんでした。3月には相模原市柴胡の会の代表とお会いし、当社の活動報告と今後の活動方針についてお話しをしました。
事業所内においては今年も種まき・育成・栽培を行いました。前期より、新生富山事業所と本社でも栽培を開始し、活動範囲を広げ啓蒙活動を行っています。

<環境に配慮した製品開発>
環境に配慮した商品を今期は32件提案し、商品化しました。内訳は、歯磨剤チューブをモノマテリアルPBLへ変更した商品が2件、歯磨剤チューブのショルダー部のプラスチックをバイオマテリアル化したプラスチックに変更した商品が30件ありました。
今後も客先と相談しながら、色々な方面から環境に配慮した製品造りを進めたいと思います。

FSC(森林管理協議会、Forest Stewardship Council)は、持続可能な森林管理を推進する国際的な非営利団体です。1993年に設立され、森林の保護と適切な利用を目的に、環境、社会、経済の三つの側面で基準を定めています。FSC認証を受けた森林や製品にはFSCマークが付され、消費者は持続可能な製品を選ぶことができます。この認証は、違法伐採の防止、生態系の保護、地域社会や労働者の権利保護にも貢献しており、森林資源の持続的利用を世界規模で促進する重要な取り組みです。

「モノマテリアルPBL」とは、製品の材料が「一種類だけ」で作られていることを意味します。PBLは「プラスチックバリアラミネート」の略で、とても強くてもしなやかなフィルムのことを指します。この素材はリサイクルしやすいです。
製品を一種類の素材で作ることで、リサイクルするときに素材ごとに分ける必要がなくなり、リサイクルが簡単になります。これは環境問題の解決につながります。しかし、従来の複数の素材で作られていた製品の機能を保ちつつ、一種類の素材で作ることは技術的に難しい課題です。

大阪営業所



<環境に配慮した製品開発>
FSC認証の個箱を使用した製品を2品目開発しました。

新生富山事業所



<CSR活動>
84期の「ゴミ拾い活動」は4回行いました。
季節の影響(真夏や真冬の気温、天候)により4回に留まっています。

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(84期)



本社

No.	項目		基準年度(81期)	85期(中期目標)	83期(今期目標)	活動内容
1	CO2排出量	電力使用量の維持	総電力使用量: 27,230kwh	基準年比 95%~105% 25,868kwh~28,591kwh	基準年比 95%~105% 25,868kwh~28,591kwh	①間引き照明を徹底する ②使っていない電気機器の電源オフを実施する ③周辺機器を清掃し、より少ない電力で利用効率を高める
		CO2排出量の維持	総CO2排出量: 13.16t	基準年比 95%~105% 12.5t~13.81t	基準年比 95%~105% 12.5t~13.81t	
2	一般廃棄物	一般ごみ・紙類の削減	最終処分廃棄物: 1,875kg	基準年比 -5% 1,781kg	基準年比 -2% 1,837kg	①排出量の現状把握と管理 ②使用済封筒・可能な裏紙の再利用 ③印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める ④ペーパータオルの使用量を必要最小限に留める→促進POP ⑤ゴミ削減(eco)の意識の徹底の為に施策を実施 ⑥据え付け紙コップ使用を最小限に留める/マイボトル、マイ水筒等を使用する
		機密書類溶解廃棄物の削減 シュレッダーの削減 段ボールの削減 古新聞の削減	再資源廃棄物: 1,557kg	基準年比 -5% 1,479kg	基準年比 -2% 1,525kg	
3	物質使用量	コピー用紙の削減	総コピー用紙量: 167,000枚	基準年比 -5% 158,650枚	基準年比 -2% 163,660枚	①使用量の現状把握と管理、周知の徹底 ②印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める ③両面、集約等の機能を有効活用 ④印刷した印刷物を必ず回収する
4	CSR活動	83期~85期で提案・実施3件 エコ関連情報発信	-	提案3件、実施3件	提案1件、実施1件 発信数12件	①自社発信の活動への参加を検討する ②野村ビル全体での活動、新宿区、周辺地区におけるCSR活動への参加も検討する ③社内へエコに関する情報発信をする

※CO2排出量係数:電気・0.000443/kWh(調整後)、ガソリン・0.00232t/L

※本社専有スペースには上水道がないため、目標を設定していません。共用スペースで使用する上水(洗面所等)は、野村ビルが一括管理しており、当社使用量は把握できません

※本社では、化学物質の使用はないため、目標を設定していません

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(84期)



相模原事業所

No.	項目		基準年度(81期)	85期(中期目標)	83期(今期目標)	活動内容
1	CO2排出量	電力使用量の増加率の削減、 原単位の削減	総電力使用量: 6,018,643kwh (原単位:0.567kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:0.550kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位:0.544kwh)	製品1本あたりの電気・ガス・ガソリン・軽油使用量及びCO2 排出量の削減 ①共有エリアの夏季冬季のエアコン設定温度管理(夏季26℃、 冬季20℃) ②不在時の消灯実施、省エネモードの活用 ③空調機のフィルター清掃、室外機と熱交換器の洗浄 ④コンプレッサーのエアー漏れ箇所の改善 ⑤社有車のアイドリングストップ ⑥太陽光発電の活用 ⑦空調熱源機の運転調整(夏季) ⑧電気温水器及びウォシュレットの暖房機能停止(夏季)
		電力購入量の増加率の削減、 原単位の削減	総電気購入量: 5,617,696kwh (原単位:0.529kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:0.513kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位:0.508kwh)	
		ガス使用量の増加率の削減、 原単位の削減	総ガス使用量: 368,755m3 (原単位:0.0347m3)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:0.0337m3)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位:0.0333m3)	
		ガソリン使用量の増加率の削 減、原単位の削減	総ガソリン使用量: 629L (原単位:5.92×10 ⁻⁵ L)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:5.74×10 ⁻⁵ L)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -3% (原単位:5.69×10 ⁻⁵ L)	
		軽油使用量の増加率の削減、 原単位の削減	軽油使用量: 755L (原単位:7.11×10 ⁻⁵ L)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:6.90×10 ⁻⁵ L)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位:6.83×10 ⁻⁵ L)	
		CO2排出量の増加率の削減、 原単位の削減	総CO2排出量: 3,314t (原単位:3.12×10 ⁻⁴ t)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:3.03×10 ⁻⁴ t)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位:3.00×10 ⁻⁴ t)	
2	廃棄物	汚泥(充填不良、廃バルク)の 削減、原単位の削減	総汚泥量: 702,370m3 (原単位:0.0661kg)	597,015kg -15% 基準年原単位比 -15% (原単位:0.0562kg)	667,252kg -5% 基準年原単位比 -5% (原単位:0.0534kg)	製品1本あたりの汚泥量の削減 ①残バルクの削減 ②ロットアウトの低減・改善 ③汚泥のリサイクル(セメント)の実施
		廃プラスチック類の削減、原単 位の削減	総廃プラスチック量: 22,787m3 (原単位:2.15×10 ⁻³ kg)	22,787kg -15% 基準年原単位比 -15% (原単位:1.82×10 ⁻³ kg)	21,648kg -5% 基準年原単位比 -5% (原単位:1.73×10 ⁻³ kg)	製品1本あたりの廃プラスチック量の削減 ①再資源化の検討 ②不良品廃棄の削減 ③廃プラスチック類のコンパクト化 ④プラスチックのリサイクル(擬木化)の実施

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(84期)



相模原事業所

No.	項目		基準年度(81期)	85期(中期目標)	83期(今期目標)	活動内容
3	上水使用量	上水使用量の増加率の削減、原単位の削減 総上水使用量:	27,939m3 (原単位:2.63×10 ⁻³ m3)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:2.55×10 ⁻³ m3)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位:2.53×10 ⁻³ m3)	製品1本あたりの上水使用量の削減 ①効率的なバルク製造 ②節水の実施
4	排水量	排水量の増加率の削減、原単位の削減 下水道排水の削減	51,764m3 (原単位:4.87×10 ⁻³ m3)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:4.73×10 ⁻³ m3)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位:4.68×10 ⁻³ m3)	製品1本あたりの排水量の削減 ①効率生産による洗浄回数の改善 ②節水の実施
5	化学物質の管理	化学物質の現状維持 (PRTR制度対象物質) 化学物質の使用量: (PRTR制度対象物質)	フッ素関連:21,255kg ポリオキシエーテル:0kg ドデシル硫酸Na:69,919kg	基準年比 +5%までに維持	基準年比 +5%までに維持	製品1本あたりの化学物質使用量の現状維持 ①現状の把握と管理 ②バルクロットアウトの低減・改善
6	物質使用量	コピー用紙の削減 総コピー用紙量:	932,500枚	基準年比 -3%	基準年比 -1%	①印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ②両面・集約等の機能を活用 ③ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)
7	生物多様性	生物多様性保全活動	-	相模事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施	相模事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施	①地域の活動に参加 ②相模原事業所の敷地内に絶滅危惧種ミシマサイコを育成・栽培、新生富山事業所への展開 ③従業員への啓発
8	製品開発において環境に配慮した施策を行う		-	83期~85期合計10件実施	3件実施	①環境に配慮した製品の開発を行う ②取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う ③環境に配慮した原料、資材の使用を推進する ④環境に配慮した製品仕様を検討する ⑤SDGsに関する勉強会に参加する

※CO2排出量係数:電気・0.000443t/kWh(調整後)、ガス・0.00223t/Nm3、ガソリン・0.00232t/L、軽油・0.00258t/L

※83~85期も増産が見込まれるため、電気使用量、ガス使用量、ガソリン使用量、軽油使用量、CO2排出量、廃棄物、上水使用量、排水量の削減は、原単位(バルク1kg当たり)に換算して評価する

※中期目標及び今期目標を一部変更した(原単位を、製品1本当たりからバルク1kg当たりに変更した。化学物資の管理の中期及び今期目標値を変更した。)

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(84期)



大阪営業所

No.	項目		基準年度(81期)	85期(中期目標)	83期(今期目標)	活動内容	
1	CO2排出量	電力使用量の維持 CO2排出量の維持	総電力使用量:	6,427kwh	基準年比 95~105% 6,106~6,748kwh	基準年比 95~105% 6,106~6,748kwh	①不在時と休憩時間の消灯実施 ②使っていない電気機器の電源オフ実施 ③夏季冬季のエアコン設定温度管理
			総CO2排出量:	2.147t	基準年比 95~105% 2.039~2.254t	基準年比 95~105% 2.039~2.254t	
2	上水使用量	上水使用量の維持	総上水使用量:	23m3	基準年比 95~105% 21.9~24.2m3	基準年比 95~105% 21.9~24.2m3	節水を心がける
3	一般廃棄物	一般ごみ・紙類の削減または維持 機密書類溶解廃棄の削減または維持 ペットボトルの削減または維持	最終処分廃棄物:	434kg	基準年比 95%~100% 412~434kg	基準年比 95%~100% 412~434kg	①排出量の現状を把握 ②使用済み封筒等再利用徹底 ③印刷物を作成する場合、必要最小限の部数に留める ④ゴミ削減及びリサイクルの意識徹底
4	物質使用量	コピー用紙の削減	総コピー用紙量:	14,795枚	基準年比 -10% 13,315枚	基準年比 -10% 13,315枚	①印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ②両面・集約等の機能を活用 ③ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等) ④電子ファイル化推進
5	環境に配慮した製品の開発		開発品目数	-	83~85期で合計3品目	83~85期で合計3品目	①環境に配慮した製品の開発を行う ②取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う ③環境に配慮した原料、資材の使用を推進する ④環境に配慮した製品仕様を検討する

※CO2排出量係数:電気・0.000334t/kWh(調整後)

※大阪サイトでは、化学物質の使用はないため、目標を設定していません

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(84期)



新生富山事業所



No.	項目		基準年度(81期)	85期(中期目標)	83期(今期目標)	活動内容	
1	CO2排出量	電力使用量の削減	総電力使用量: 855,615kwh	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 4%削減	以下4項目の施策をしつつ、エネルギー使用量、CO2排出量を毎月測定し、記録する ①不在時と休憩時間の消灯実施 ②使っていない電気機器の電源オフ実施 ③夏季冬季のエアコン設定温度管理 ④社有車のアイドリングストップ	
		プロパンガス使用量の削減	総プロパンガス使用量: 38,038m ³	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 4%削減		
		ガソリン使用量の削減	総ガソリン使用量: 770L	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 4%削減		
		CO2排出量の削減	総CO2排量: 650t	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 4%削減		
2	廃棄物量	産業廃棄物量の削減	総産業廃棄物量: 7,320kg	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 4%削減	①印刷物の裏紙の再利用 ②不良品廃棄の削減	
3	上水使用量	上水使用量をの削減	総上水使用量: 2,436m ³	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 4%削減	①節水の実施 ②上水使用料を毎月測定し管理する	
4	排水量	下水道排水量の削減	総下水道排水量: 2,885m ³	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 4%削減	①節水の実施 ②下水道排水量を毎月測定し管理する	
5	化学物質の管理	化学物質の使用量の現状維持 (PRTR制度対象物質)	化学物質の使用量: (PRTR制度対象物質) ドデシル硫酸Na:48.36kg	81期を基準年度 ±0%	81期を基準年度 ±0%	PRTR制度対象物質を把握し、使用量を毎月測定し、管理する	
6	物質使用量	コピー用紙使用量の削減	総コピー用紙量: 97,000枚	81期を基準年度 1%削減	81期を基準年度 0.7%削減	以下3項目の施策をしつつ、コピー用紙の使用量を毎月記録する ①印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ②両面・集約等の機能を活用 ③ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)	
7	CSR活動	周辺地域のゴミ拾い活動の実施	-	4回/年	活動の継続(4回/年)	活動の継続(4回/年)	周辺地域のゴミ拾い活動をする
8	生物多様性	生物多様性保全活動の実施	-	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコ の育成・栽培、啓発の実施	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコ の育成・栽培、啓発の実施	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコ の育成・栽培、啓発の実施	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコ の育成・栽培、啓発の実施

※CO2排出量係数:電気・0.000466t/kwh(調整後)、LPG・0.00655t/m³、ガソリン・0.00232t/L
 ※廃棄物量の項目について、83期までは「廃棄プラスチックの削減」でしたが、84期から「産業廃棄物量の削減」に変更しました

9. 環境関連法規



83期、各事業所は、各種適用法規が遵守されております。
また、各事業所に対する、国、各事業所のある都府県・市区町村、近隣の住民からの指導、訴訟及び苦情は有りませんでした。

環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

適用される法規等	本社	相模原事業所	大阪営業所	新生富山事業所	遵守評価
省エネ法	✓	✓	✓	✓	遵守
廃棄物処理法	✓	✓	✓	✓	遵守
消防法	✓	✓	✓	✓	遵守
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	✓	—	—	—	遵守
神奈川県地球温暖化対策推進条例	—	✓	—	—	遵守
フロン排出抑制法	—	✓	—	✓	遵守
相模原市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等の推進に関する条例	—	✓	—	—	遵守
大気汚染防止法	—	✓	—	✓	遵守
水質汚濁防止法	—	✓	—	—	遵守
神奈川県生活環境の保全等に関する条例	—	✓	—	—	遵守
下水道法	—	✓	—	—	遵守
相模原市下水道条例	—	✓	—	—	遵守
下水道法(上市町下水道条例)	—	—	—	✓	遵守
悪臭防止法	—	✓	—	✓	遵守
騒音規制法	—	—	—	✓	遵守
富山県騒音規制法に基づく騒音について規制する地域の指定等について	—	—	—	✓	遵守
相模原市条例;悪臭防止法による悪臭原因物の排出を規制する地域等について	—	✓	—	—	遵守
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)	—	✓	—	✓	遵守
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	—	✓	—	✓	遵守
工場立地法	—	✓	—	✓	遵守
相模原市工場立地法に基づく市準則条例	—	✓	—	—	遵守
労働安全衛生法	—	✓	—	✓	遵守

10. その他の活動実績(83期)

10-1. 社内の安全衛生と健康経営活動

<AED取扱い説明会(相模原事業所)>

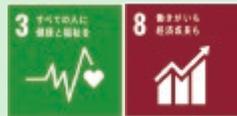
2023年6月23日(金)13:30-14:30 第1・2会議室



2024年4月25日(木)13:30-14:30 第1・2会議室

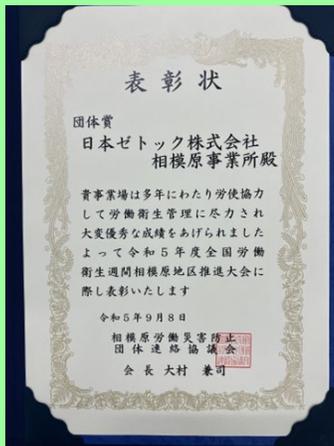


セコム警備株式会社 片倉様から、AEDを使った救命の流れ(容態確認～心肺蘇生の手順)と胸骨圧迫(心臓マッサージ)の方法の講習を受けました。救命は1人で行わず、必ず周囲の助けを借りること。人を助ける気持ちを持ち、行動をおこす大切さを学ぶ時間となりました。



<全国労働衛生週間 相模原地区推進大会 表彰>

全国労働衛生週間 相模原地区大会において、労働衛生管理活動が評価され、表彰されました。大会自体は、悪天候により中止になりました(2023年9月8日)。



<健康優良企業「銀の認定証」取得>

健康優良企業とは、健康保険組合連合会 東京連合会が定めた「評価基準と確認方法」にもとづく審査にて、80点以上の評価を得た企業を認定する制度です。近年、企業経営の重要なキーワードとして「健康経営」があげられるようになりました。健康経営とは、社員の健康維持・増進の取り組みを経営的視点から考え、戦略的に実行することです。この度、当社も申請を行いましたところ、一定の成果を収めた企業に与えられる「健康優良企業(銀の認定)」をいただくことができました。「社員の健康状態の向上は将来的な収益性を高めるための投資である」という考えのもと、日本ゼットックはこれからも健康経営を推進して参ります。

<スマホde東海道五十三次ウォークラリー>

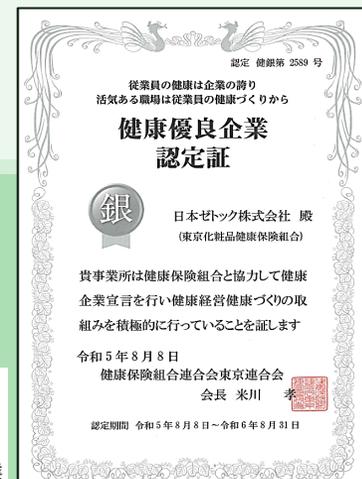
「スマホde東海道五十三次ウォークラリー」は、2023年6月1日～6月28日までの約1か月間、1日8,000歩を目標にチームのメンバーと一緒に、バーチャルで東海道五十三次を巡る歩数イベントです。スマートフォンにアプリをダウンロードすればイベントに参加ができます。



当社からは約90人の参加がありました。開会式ではオンラインでFast Fitness Japan監修の「正しい歩き方」についての説明も受けました。そこから1か月間、アプリで企業対抗やチーム内の順位を意識しながら、楽しく運動不足解消に取り組みました。参加者同士でのコミュニケーションも向上し、とても盛り上がるイベントとなりました。



参加504チーム中ゼットックの順位は124位、1日平均8,000歩をクリアする結果となりました。



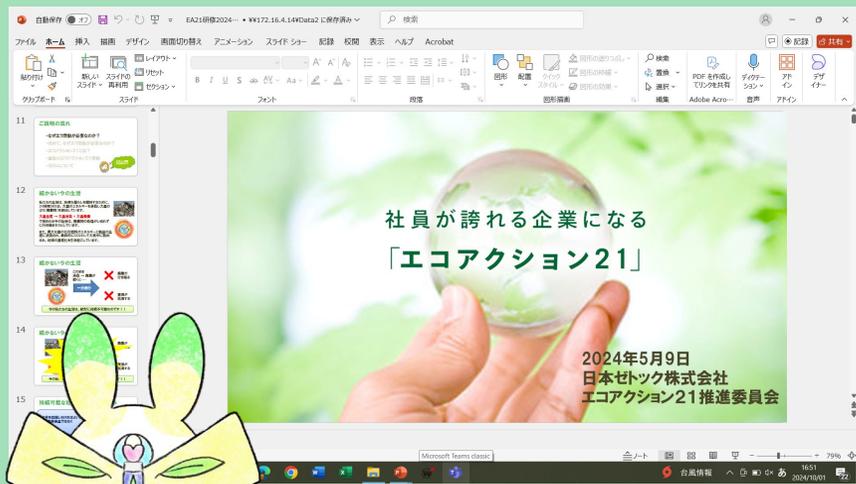
10. その他の活動実績(83期)

10-2. 内部コミュニケーション



<エコロジー、エコアクション21研修>

83期は、エコロジー、エコアクション21に関する講義研修を、合計7回実施しました。エコアクション21の活動に積極的に関わってもらうためにも社内周知は重要です。新入社員・キャリア入社社員が入社する際には、必ず「エコアクション21」に関する講義研修を実施しています。



<エコロジー、エコアクション21研修>

エコロジー意識を、少しでも社内に浸透してもらうことを目的に、新しい社内コミュニケーションを考えました。2024年4月から「エコアクション21から ひとこと」という、ゆるい読み物を、不定期に、社内イントラネットを使って配信することにしました。83期は2報配信しました。来期は1年を通して12件配信する予定です。

エコアクション21から ひとこと



<エコアクション21オブザイヤー2023ソーシャル部門「銅賞」受賞を報告>

エコアクション21オブザイヤー2023の「ソーシャル部門」で「銅賞」を受賞させて頂いたことは、直ぐに社内イントラネットで、全従業員に報告しました。

また、社内報の「TSUNAGARU Vol. 23」にも、「銅賞」を受賞したことを掲載してもらいました。



わたしたちが誕生した切っ掛けだね！
そうだね！これから、いろいろなことを発信しようね！

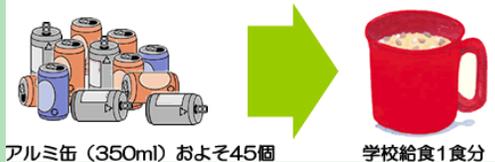


10. その他の活動実績(83期)

10-3. 社会貢献活動



<アルミ空き缶とペットボトルキャップの回収活動(相模原事業所)>



学校給食
118食分相当



ポリオワクチン
18人分相当



アルミ缶でボランティアの インフォメーションより

相模原市にある日本ゼトックの工場に行ってきました

📅 2024年2月24日 📅 2024年8月31日 アルボラ



2月19日相模原市にある日本ゼトックの工場に行ってきました。
2019年3月以来今回で8回目になります。
こちらではアルミ缶をプレスして一回の収分量が格段に多く、本来ならトラック一杯になるところをとてもコンパクトな状態で積み込むことができ、そのままでの訪問先に行くことができます。
これまでにアルミ缶412kg回収させていただきました。
ありがとうございました。

2018年からZTCでもアルミ空き缶とペットボトルキャップを回収し、「NPO法人アルミ缶でボランティア」の活動に参加しています。83期は、以下の個数を回収して、寄付することができました。

<2023年8月7日>

- ・アルミ缶:65.9kg(学校給食88食分相当)
- ・ボトルキャップ:27kg(ポリオワクチン約7人分)

<2024年2月19日>

- ・アルミ缶:57.5kg(学校給食118食分相当)
- ・ボトルキャップ:71.7kg(ポリオワクチン18人分相当)



<献血(相模原事業所)>

2023年12月28日に、神奈川県赤十字血液センター主催の献血が行われました。このイベントは、9:30~11:30と13:00~16:00までの2回に分けて開催されました。献血には、46名の参加者があり、実際の献血者は38名でした(200ml:8名、400ml:30名)。当事業所は多年にわたり、献血実施を行っているため、献血推進団体として今年表彰されました。



献血の目的は、輸血が必要な患者さんの命を救うことです。血液は人工的に作ることはできず、長期保存も難しいため、健康な人々が自分の血液を提供することで、必要な血液を確保し、多くの命を救うことができます。献血は社会貢献の一部であり、参加者自身の健康維持にも役立ちます。献血行為は、誰かの大きな希望となり、生命を救う可能性があります。これからも、貴重なご協力をお願い申し上げます。



<FIDR(国際開発救援財団)への賛助>

FIDRは、開発途上国の人々が自立的に発展できるように、教育や開発援助などを行うNGOです。その活動は、「心をあわせ、未来をひろく」をモットーに、現地のニーズに応じた多岐にわたる支援を行っています。また、日本やアジアの国々で起こる自然災害に対する緊急援助事業も展開しており、熊本地震などの際にはその活動が評価されました。

ZTCは2022年6月からFIDRの賛助会員となり、保健衛生・医療・栄養・農業・教育・産業育成などの分野で行われるFIDRの活動を支えています。開発途上国の子どもたちが健康的に成長できる社会の実現に向けて、ZTCはFIDRの活動を全力でサポートしていきます。



10. その他の活動実績(83期)

10-3. 社会貢献活動

<プラスチックのリサイクル(相模原事業所)>

2021年8月から、相模原事業所はプラスチック廃棄物のリサイクルを始めました。この活動は、神奈川県愛甲郡愛川町の株式会社アクト・エアと共同で行われ、ほぼ100%のマテリアルリサイクル(原料化して再利用可能な状態にし、資源を循環させるリサイクル)を目指しています。このリサイクルプロセスでは、プラスチック廃棄物は焼却せずに破砕、熔融、圧縮成形され、擬木に変換されます。これにより、CO2の排出量が削減されます。

さらに、リサイクルされた擬木を花壇用柵プランターとして購入し、79期から当社で行っている「ミシマサイコ」の栽培に使用しています。これは、企業内での循環型リサイクルの一環と言えます。

83期は、101,150kg分をリサイクルしました。



擬木を使用した
ミシマサイコ花壇の柵(相模原)



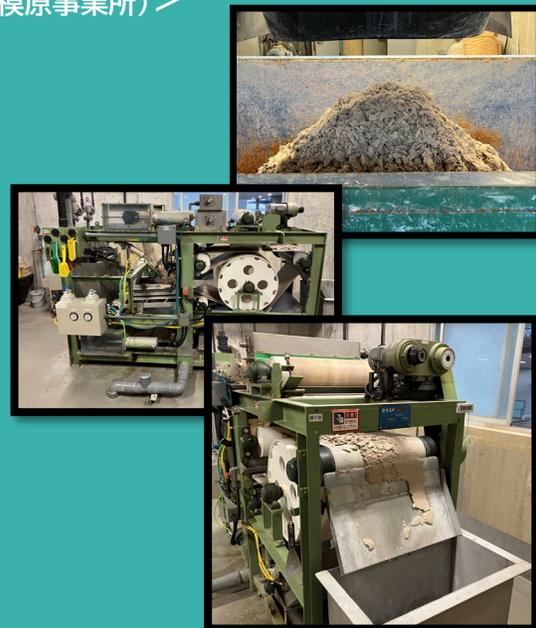
<排水処理汚泥のリサイクル(相模原事業所)>

排水汚泥とは、産業活動から生じる排水を処理する過程で生成される泥状の廃棄物です。工場や下水処理場で発生するこれらの汚泥は、高温で焼却するとセメントの原料に再利用することができます。

このリサイクル活動を、相模原事業所では、株式会社アクト・エアと共同で、2022年7月から開始しました。当初は全体の20%の汚泥のリサイクルから開始して、2022年の9月からは100%の汚泥がリサイクルされるようになりました。

このようなプロセスは「マテリアルリサイクル」と呼ばれ、原料化して再利用可能な状態にすることで資源を循環させることができます。相模原事業所で作る汚泥は、現在はセメントの原料として有効に利用されています。

83期は、汚泥関係で389,740kg分をリサイクルしました。



<ユニフォームのリサイクル(相模原事業所)>



2024年5月から相模原事業所では、株式会社ガードナーにお願いをしまして、工場で使用していて、使用できなくなってしまったユニフォームのリサイクルを開始しました。

株式会社ガードナーは広域認定制度の認定を受けた企業です。広域認定制度とは、製品の製造事業者(製造・加工・販売等の事業を行なう者)が、廃棄物となった自社の製品をユーザーから回収してリサイクルすることを目的とした制度です。

第1回目の回収では10kgをお願いしました。

<使用済み切手の回収活動(本社、相模原事業所)>



使用済み切手を収集して、「NPO法人相模原ボランティア協会」へ寄付しています。

「相模原ボランティア協会」は協会所有の福祉車両などで外出支援を行う「ハンディキャブ運行活動」や障がいを持つ方との交流イベント「ほかほかふれあいフェスタ」などをボランティアで行っています。

切手の寄付の収益金をは、ハンディキャブの購入金や、「ハンディキャブ運行活動」の運営にあてられます。83期は526gの寄付を行い、お礼状を頂きました。



<社会貢献型職域販売「クローズドマート」>



社会貢献型職域販売サービス「クローズドマート」は、食品ロスを削減し、持続可能な開発目標(SDGs)を推進するための取り組みの一つです。

クローズドマートで購入すると食品ロス、処分ロス削減に繋がります。また、売上の一部が途上国のこどもたちの支援にも使われます。

SDGs対策を社員参加型で進められるように、82期から当社は法人契約し、従業員がお得にお買い物しながら社会貢献できる環境作りと、情報を発信して利用率向上活動にも取り組んでいます。

10. その他の活動実績(83期)

10-4. 地域活動

<CSR活動報告 地域清掃(相模原事業所、新生富山事業所)>

地域清掃は、企業が社会貢献活動(CSR)の一環として行う活動の一つです。この活動は、企業が自社の事業所周辺や地域社会の公共の場でゴミ拾いや清掃活動を行い、地域社会との関わりを深め、地域の美化と環境保全に貢献することを目指しています。

これは、企業の社会的責任(CSR)を果たすための重要な取り組みであり、地域社会との良好な関係を築くための一助となります。また、従業員が直接地域社会のために貢献することで、社員のモラル向上やチームワークの強化にもつながります。

地域清掃活動は、企業が地域社会と共に成長し、持続可能な社会を実現するための一歩と言える活動です。

相模原事業所では、2015年から地域貢献活動として近隣の歩道でゴミ拾いを行っており、83期は2023年11月22日、12月21日、2024年5月22日の3回、活動を行いました。5月22日の活動では、本社からの参加もありました。

新生富山事業所でも、地域清掃の一環としてゴミ拾い活動が行っており、83期は、2023年11月1日、2024年4月8日、5月2日、5月24日の4回、活動を行いました。

これらの活動は、地域の美化と環境保全に貢献しています。

【相模原事業所近隣】



【新生富山事業所近隣】



相模原事業所では、2015年から9年間、毎年ゴミ拾い活動をやっているよ!



新生富山事業所は、2020年から4年間だよ!

10. その他の活動実績(83期)

10-4. 地域活動



<相模原市エコオフィス認定>

2023年9月20日、相模原市エコオフィス認定を受けました(有効期限:令和8年8月31日)。相模原市では、自然環境への負荷の軽減を考慮し、ごみの減量化・資源化の推進に取り組む市内企業者をエコショップ・エコオフィスとして認定しています。これは資源循環型都市の形成および発展に寄与することを目的としております。認定企業は、市のHPへ掲載されます。弊社は認定要件を満たしている可能性があるため、申請を行いましたところ、認定を受けることができました。



<2024年度版 富山県製薬企業PRパンフレットに収載>



一般社団法人富山県薬業連合会では、例年、会員製薬企業を紹介するパンフレットを作成し、主に全国の薬系大学に配布してきております。2024年度版から当社も掲載頂いています。



<SDGsスタディーツアー(相模原事業所)>

1. 実施日等詳細
 実施日:2023年11月21日(火)
 場所:3号棟3F食堂及び3号棟2F見学通路
 学校名:相模原市立清新中学校 1年生
 受入人数:1クラス(37名) 他引率職員2名
 引率者:藤原 様 古木 様



2. スケジュール
 12:30 バス到着
 12:30~13:45 小山公園にて生徒昼食
 13:45~14:00 3号棟食堂へ案内
 14:00~14:30 事業所説明
 14:30~15:00 工場見学(3号棟2F見学通路にて包装行程・製品倉庫見学)
 15:00~15:45 SDGs取組説明後終了

3. ねらい(学校より)
 ○総合的な学習の時間における、課題解決学習の場として、各自のテーマに沿った体験を実施し、課題解決の実践力を育成する。
 ○自分たちが育った地域や文化に誇りを持たせる。
 ○SDGsの視点を持ち、「さがみはら」地域における課題を見つけ、自らその課題を解決しようとする態度を育成する。

4. 学習内容
 ○当社の業務内容を説明し会社を知ってもらう。
 ○工場見学を通じ、ものづくりへの興味を持ってもらう。
 ○SDGsの取組を紹介し、当社の社会への貢献について知ってもらう。

※学習発表会が 2024年2月9日に開催され、参加しました。



<令和6年能登半島地震被害への支援>

2024年1月1日に発生しました能登半島地震において亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。当社では、被災地の皆様の健康維持を願い、大人用歯磨き剤、子供用歯磨き剤、口腔保湿剤を石川県歯科医師会からの要請に応じて発送致しました。



10. その他の活動実績(83期)

10-4. 地域活動



<特定非営利活動法人おおかみこどもの花の家(新生富山事業所)>



富山県中新川郡上市町にある写真の古民家は、映画「おおかみこどもの雨と雪」の舞台モデルとなりました。



明治20年の登記なので、140年前から大切に愛されてきた建物です。誰もが楽しめるように公開されていて、お庭を眺めながらお茶を飲んだり、お弁当を広げて食べたり、まるで映画の世界観そのままに、ゆっくりとした時間の流れを楽しむ憩いの場所となっています。

古き良き日本の歴史を残した貴重な古民家をなるべく長く残すために活動されている「特定非営利活動法人おおかみこどもの花の家」の活動を日本ゼットック株式会社も賛助会員企業として応援しています。

とぼえ通信→
で情報を発信



<fukushimaさくらプロジェクト(相模原事業所)>

2015年6月17日、東日本大震災の復興応援として、「fukushimaさくらプロジェクト」に参画し、相模原市中央区の「上溝さくら公園」に、新種の桜「はるか」を植樹しました。

当時の植樹式には、相模原市副市長や地元自治会の方、地元保育園の園児たちなども含め、100名以上の出席があり、盛大に実施されました。

「fukushimaさくらプロジェクト」とは、福島で育つ新しい桜「はるか」を広めるプロジェクトです。「はるか」の苗木を増やし、この桜に込められたメッセージと共に福島から全国へ届けることを通じて、東日本大震災の「風化」や「風評」に対する復興応援を行っています。

あれから9年が経ち、当社が植樹した「はるか」は大きく育ち、毎年4月にはきれいな花を咲かせています(撮影は4月14日に行いました)。



2015年6月17日当時の植樹式の様子

10. その他の活動実績(83期)



10-5. 生物多様性活動

【ミシマサイコと相模原の関わり】

相模原市は、かつて相模野台地と呼ばれる広大な原野が広がっていました。その中には、「柴胡が原」と名付けられたミシマサイコの自生地が存在していました。夏には黄色い花が一面に広がり、秋にはその根が貴重な漢方生薬・柴胡の原料として採取されていました。しかし、1900年代から都市化が進行し、1950年代には都市化と工業用地化の影響で自然環境が大きく変わってしまいました。その結果、相模原市内で自生のミシマサイコを目にすることができたのは、1955年頃が最後だとされています¹⁾。

1)「ミシマサイコという薬草を知っていますか！ 相模原柴胡の会(Sagamihara Saiko Association)」
<<https://main-townguide.ssl-lollipop.jp/saiko/index.html>>



【相模原柴胡の会との関わり】

「相模原柴胡の会」は、生物多様性に関する法律を遵守しつつ、ミシマサイコの育成と栽培を行い、その普及と啓発を目指す団体です。また、相模原市の環境保全とイメージ向上にも貢献しています。私たちの相模原事業所では、毎月この団体の活動に有志を募って参加していました。しかし、今期は新型コロナウイルスの影響で、残念ながら活動を一時停止せざるを得ませんでした。しかし、徐々にコロナも落ち着いてきたので、来期には再び活動に参加したいと考えています。



【相模原事業所敷地内(ミシマサイコ群生地の一つであった大山工業団地)での育成・栽培】

相模原事業所の敷地内で、ミシマサイコの種を植えて育てる活動が行われました。2022年3月に種をプランターにまいたところ、6月初旬には発芽し、夏には見事に成長しました。その美しさと生命力で、事業所を明るく彩りました。秋から冬にかけて、さらに大きく育ったミシマサイコは、11月に花壇に移植されました。



2023年1月には葉が枯れましたが、根元は緑色を保ち、春には再び新緑の葉が生えてきます。このような経験を通じて、自然とのつながりを深め、生命の尊さを再認識することができました。今期も2023年3月に、ミシマサイコの種をプランターにまき、育成・栽培を開始しました。



【上市高校訪問(ミシマサイコ)】



上市高等学校ミシマサイコの試験栽培場



2022年8月25日(木)に、日本ゼトック株式会社のエコアクション委員である金岡さん、武岡さん、小林さんは富山県立上市高等学校を訪れ、石黒友一先生からミシマサイコの育て方を学びました。学校の試験栽培所を見学させていただき、栽培方法についての有益な情報を得ることができました。また学校側からはミシマサイコの花を使った石鹸などの商品化についてのアイデアをいただきました。今のところ、実現するのは難しいかもしれませんが、新たな視野を頂き、ミシマサイコの栽培に対する意欲を高めました。ありがとうございました。



育苗ポット



成長したミシマサイコ



水中曝気装処理



石黒先生(中央)



10. その他の活動実績(83期)

10-5. 生物多様性活動(ミシマサイコ栽培)

【相模原事業所:従業員に苗を配布】



配布前の苗

2024年4月19日に従業員に苗を配付しました。たくさんの方が、興味をもって参加して下さいました。このような経験を通じて、保護活動を上げていきたいと考えています。今期も3月に、ミシマサイコの種をプランターにまき、育成・栽培を開始しています。



苗を配布する様子

【本社:ミシマサイコの育成】

本社でも、ミシマサイコの活動を知ってもらうために、相模原事業所で育てたミシマサイコの株を分けて育てています。建物内なので難しい面もありますが、様々な工夫を試しています。



光量が弱いので苦勞しています。



花壇デビューしました！

以前、従業員に配布した苗の成長



こんなに大きく育ったとご自宅のお写真を頂きました！ありがとうございます。のびのびと、元気に育ってくれてうれしいです。



【相模原事業所:ミシマサイコの育成】

相模原事業所では、引き続き積極的にミシマサイコの栽培・育成・繁殖を行っています。3月に種まきをを行い、大きくなってきたら花壇に移します。花壇では、あえて雑草を抜かない自然農法を取り入れています。



【新生富山事業所:ミシマサイコの育成】



寒いので苦勞しています。



新生富山事業所でも、生物多様性の保全の一環としてミシマサイコの育成に、取り組んでいます。元気ではあるのですが、相模原ほど大きくは育ちませんでした。上市高校で育て方のコツを教してもらったり、富山県薬用植物指導センターに相談しており、来年に向けどうすれば大きく成長してくれるか研究中です。今後も継続して保全活動に取り組んでいきたいと考えています。



種まき



暴風ネット取り付け

10. その他の活動実績(83期)



10-6. 緊急事態への準備及び対応

<避難訓練(相模原事業所)>

相模原事業所では、2023年12月8日の16:50~日勤者(239名)向け、20:50~夜勤者(73名)向けに、地震を想定した避難訓練を行いました。避難時間は日勤向けで5分5秒、夜勤向けで1分30秒でした。訓練開始時には社内電話で地震発生を知らせ、避難は各部署ごとに行われ、ヘルメットや防災頭巾を着用してトラックヤードに集合しました。

【日勤向け訓練】



【夜勤向け訓練】



<自衛消防団活動(相模原事業所)>

相模原事業所では、2023年12月8日に予定されている避難訓練に先立ち、自衛消防団(避難誘導班・消火班)による避難経路と消火器の確認を行いました。日程は2023年11月17日、27日、28日の3日間に分けて行いました。



<避難訓練(新生富山事業所)>

新生富山事業所では、2023年9月1日の16:30~、全新生富山事業所の従業員(24名)を対象に火災を想定した避難訓練を行いました。訓練は避難経路の確認と避難訓練で、避難時間は約10分でした。訓練開始時には社内電話で地震発生を知らせ、避難は各部署で行われました。避難時にはヘルメットや防災頭巾を着用しました。



<避難訓練(本社)>

本社では、新宿野村ビルの管理会社の主催で、2023年10月7日と2024年3月11日に避難訓練を行いました。これらの訓練は、災害発生時の避難ルートの確認、パニック状態を抑える方法、そして緊急事態に対する手順の確認を目的としています。当社からは、春の訓練では27名、秋の訓練では24名が参加しました。これらの訓練は毎年2回、春と秋に実施されています。



10. その他の活動実績(83期)



10-7. エコアクション21活動での出会いから…

<エコアクション21オブザイヤー2023>

83期は初めて「エコアクション21オブザイヤー」に応募しました。「環境経営レポート部門」と「ソーシャル部門」の両方に応募を行いましたところ、「ソーシャル部門」の銅賞を受賞することができました。

授賞式には、当社から2名が出席しまして、受賞された諸先輩企業の方々と有意義な意見交換をすることができました。

<授賞式>
日 程:2024年3月24日(日)
時 間:11:00~13:30
場 所:TKP品川カンファレンスセンター



<常磐植物化学研究所様をご訪問>

2024年5月15日、「エコアクション21オブザイヤー2023」の授賞式でお会いさせて頂いた「常磐植物化学研究所様」の千葉県佐倉工場をご訪問させて頂きました。「常磐植物化学研究所様」は「ソーシャル部門」で金賞を受賞されております。この度、両社工場を訪問し合いましょうというお約束をさせて頂き、まずは当社が訪問させて頂きました。

「常磐植物化学研究所様」は、エコアクション21を上手に活用することで団結を深め、環境経営と品質文化の融合を実現し、持続的な成長を遂げています。日本でもトップクラスの運用を拝見させて頂き、とても勉強になりました。

当社においてもできる範囲で、「常磐植物化学研究所様」を見習い、もっと効率よく、エコアクション21を有効活用することで、品質文化の醸成、GMP管理・衛生管理の向上、企業イメージの向上を目指していくことが重要ではないかと思いました。



<常磐植物化学研究所様のご来訪>

2024年8月6日、今度は「常磐植物化学研究所様」に、当社相模原事業所へご来訪頂きました。当社工場見学や、絶滅危惧植物「ミシマサイコ」の栽培状況、当社エコロジー活動について、見学を頂き、多くの意見交換をさせて頂きました。



<当社エコロジー活動の マスコットキャラクター(ゆるキャラ)募集>

「エコアクション21オブザイヤー授賞式」と「常磐植物化学研究所様」のご訪問を通じて、当社でも、エコロジー活動のマスコットキャラクター(ゆるキャラ)を造ることにしました。

「常磐植物化学研究所様」のゆるキャラである、キュートな「ベねたむ」ちゃんに触発されました。合計6体の応募があり、厳正な審査の結果2体が採用されました。当社のエコロジー活動用のキャラクターに「アマレロ」ちゃん、当社のミシマサイコ栽培用のキャラクターに「さいびよん」ちゃんが選ばれました。

詳細は次ページに記します。



10. その他の活動実績(83期)

10-7. エコアクション21活動での出会いから…マスコットキャラクター(ゆるキャラ)誕生!



◆アマレロちゃん(左)

作者:橋本葵さん
所属:製造部 包装グループ



◆さいぴょん(右)

作者:大野愛菜さん
所属:信頼性保証部 本社QAグループ



10. その他の活動実績(83期)

10-8. トピック

<日本ゼトックが共同開発の歯みがき剤が宇宙技術殿堂入り>

アメリカ航空宇宙局(NASA)の技術をヒントにむし歯予防成分「薬用ハイドロキシアパタイト」配合の歯みがき剤を開発したことが、宇宙技術に関する優れた開発を表彰するアワード「Space Technology Hall of Fame® (宇宙技術の殿堂)」にて日本企業として初めて日本ゼトック株式会社と株式会社サンギが”殿堂入り”を果たしました。日本ゼトックは、美白高機能歯みがき売上No.1*シリーズ「アパガード」や、発売から40年以上のロングセラー薬用歯みがき「アパデント」などを製造しています。2024年4月8日から11日まで米国コロラドスプリングスで開催された「宇宙シンポジウム」にて表彰式が行われ、製造元の日本ゼトックと発売元の株式会社サンギが出席しました。

* インテージSRI+2023年 美白高機能歯みがき市場売上金額主要シリーズ「アパガード」



画像提供: Space Foundation



11. 代表者による全体の評価と見直し・指示

<全体の評価>

83期は、2022年2月に発生したロシアによるウクライ侵攻に伴う原油価格の高騰と、それに起因する原材料の値上げ、それに加えて円安や物流2023年問題、異常気象などに伴う物価高騰もあり、仕入れに関しては大変苦慮することになった。来期以降も地政学的リスク、気象リスクに悩まされることになるだろう。

一方でコロナ禍の副産物ともいえる、リモートでの会議やセミナー受講等は定着し、効率化を生んでいるように感じる。この影響からか、コピー用紙の使用量が全事業所で削減目標を達成しており評価したい。

83期は、エコアクション21オブザイヤー2023のソーシャル部門にエントリーし、銅賞を受賞することができた。2013年にエコアクション21の認証を取得してから10年経つが、地道に活動を続けてきたことの成果と考え嬉しく思う。

相模原事業所では、引き続き生産数量の増加に伴い、電力、ガスの使用量の増大が続いており、二酸化炭素排出量の増大を招いた。軽油使用量については、大型トラックを導入したことにより大幅な増加となった。しかし、トラックは製品等の輸送の内製化に利用しているので、当社全体のサプライチェーン温室効果ガス排出量で見れば前期と差は無いと考える。また相模原事業所の社用車をハイブリッドエンジンタイプに変更したため、ガソリン使用量は大幅に削減された。

前々期に太陽光発電設備を設置したが、今期は70万kWh弱の自家発電が叶い、自給率にして10%強に相当するため、大きな効果であると実感している。

廃棄物については、プラスチックと汚泥のリサイクルを行っていることで、極めて大きな廃棄削減効果を得ることができており大変評価している。

本社では、前述の通りコピー用紙使用量が大きく削減された。会議において、事前に資料をweb配信するルールが定着したことも印刷物を減らす大きな要因になっているだろう。引き続き、紙を使用しない習慣の継続を期待する。

大阪営業所についても、コピー用紙の使用量が大幅削減された。本社同様、この良い習慣を継続してもらいたい。

新生富山事業所では、若干生産量が減少したことに伴い、エネルギー使用量や廃棄物排出量も削減された。

<見直し・指示>

相模原事業所には、各棟の効率的な稼働による原単位でのエネルギー使用量等の削減を実現するよう指示した。

本社と大阪事業所、新生富山事業所には、SDGsやCSRを踏まえた新しい取り組みを考えるよう指示した。また全体を通しては、様々な情報をデータ化し、データベース化し、データ連携させ、適切な情報を適切な時期に速やかに得られるよう、そして効率化に繋がるようなDXの推進を指示した。

VUCAな時代と言われて久しい。最近ではBANIな時代であると言われるようになってきた。つまり脆く(Brittle)、不安で(Anxious)、非線形性で(Non-linear)、不可解な(Incomprehensible)時代ということだ。

一見強固な体制も何かの切っ掛けで脆く崩壊する。コロナ禍のように不安な状態は真実を見誤る可能性を秘め、地政学的・気象リスクは常識的な予測を不可能とする。複雑化した社会は、物事の詳細やプロセスが不透明であり、全体像を把握し難いと言ってよいだろう。

このような時代において、当社が持続的競争優位を獲得して生き抜くため、人財の適性配置や発掘、抜擢も行き、適応力、回復力の強化に加え、従来の事業領域から踏み出して新規分野にもチャレンジしていきたい。

来期もSDGsを念頭におき、社会への貢献と環境への負荷軽減、利害関係者との良好な関係構築、人財の活用を行い、それと同時に、またそれを利用して企業価値を高め、持続的競争優位の獲得を進めていきたい。環境負荷低減については、「エコアクション21推進委員会」が、社会貢献については「エコアクション21推進委員会」を含めた全部門が、協力とリーダーシップをもって、より一層従業員への喚起と、社会への発信を行なうことを期待している。

BANI

Brittle/Anxious/Non-linear/Incomprehensible

2024年 7月 1日
代表取締役社長 森山 正孝

<環境経営方針及び実施体制の見直し>

項目	見直しの有無	評価コメント
環境経営方針	無	現時点での環境経営方針自体の見直しは不要。
実施体制	無	現時点での実施体制の見直しは不要だが、組織変更があった際は、適宜体制や委員の見直しを検討すること。



EA21

来年も、環境に優しい会社を
目指していくので、応援よろしく
お願いします😊

節電や省資源など、小さなこ
とからコツコツ、この調子で頑
張っていきましょう！

このレポートを読んで、少し
でも環境問題に関心を持って
くれたらうれしいな❤️



MASCOT
CHARACTER

ZTC 日本ゼトック株式会社

● 本社

〒163-0512 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号 新宿野村ビル12F
TEL : 03-5323-2020 (代表) FAX : 03-5323-3010 (代表)

● 相模原事業所

〒252-0146 神奈川県相模原市緑区大山町1番5号
TEL : 042-775-8700 (代表) FAX : 042-775-7012 (代表)

● 新生富山事業所

〒930-0325 富山県中新川郡上市町三日市22番地
TEL : 076-472-0380 (代表) FAX : 076-472-0339 (代表)

● 大阪営業所

〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町三丁目2番4号JUST本町ビル7F
TEL : 06-6262-6881 FAX : 06-6262-6601